4-5. あなたは普段、異性の親友と話したり連絡をとるとき、以下のもの（こと）をどれくらい使いますか（どれくらいしますか）。あてはまるところに○をつけてください。

※異性の親友がいない場合は左下の「異性の親友はいない」のカッコに○をつけてください。
※該当する機器を持っていない場合には、「持っていない」のカッコに○をつけてください。

異性の親友はいない［　］

	持っていない	全くしない	ほとんどしない	たまにする	よくする	とてもよくする
携帯電話（通話）	［　］	|	|	|	|	|
携帯メール	［　］	|	|	|	|	|
家の電話	［　］	|	|	|	|	|
大学・家のパソコンのメール	［　］	|	|	|	|	|
手紙		|	|	|	|	|
直接会う		|	|	|	|	|

4-6. あなたは普段、恋人と話したり連絡をとるとき、以下のもの（こと）をどれくらい使いますか（どれくらいしますか）。あてはまるところに○をつけてください。

※恋人がいない場合は左下の「恋人はいない」のカッコに○をつけてください。
※該当する機器を持っていない場合には、「持っていない」のカッコに○をつけてください。

恋人はいない［　］

	持っていない	全くしない	ほとんどしない	たまにする	よくする	とてもよくする
携帯電話（通話）	［　］	|	|	|	|	|
携帯メール	［　］	|	|	|	|	|
家の電話	［　］	|	|	|	|	|
大学・家のパソコンのメール	［　］	|	|	|	|	|
手紙		|	|	|	|	|
直接会う		|	|	|	|	|

5 携帯電話の利用内容

5-1. 次のメッセージを知り合いや友人などに伝えるとき、どのような方法を用いて伝えますか。例にならって、用いると思う方法すべてにチェックを付けてください。

※以下のメッセージを相手に伝えないときは、「言わない」のカッコ内に○をつけてください。

例

0．誕生日のお祝いの言葉

	言わない	携帯電話	携帯メール	家の電話	パソコンのメール	手紙	直接会う
知り合い	［○］	□	□	□	□	□	□
友人（同性）	［　］	□	☑	□	☑	☑	□

1．授業やサークルの連絡など、事務的な事柄

	言わない	携帯電話	携帯メール	家の電話	パソコンのメール	手紙	直接会う
知り合い	[ ]	□	□	□	□	□	□
友人（同性）	[ ]	□	□	□	□	□	□
友人（異性）	[ ]	□	□	□	□	□	□
親友（同性）	[ ]	□	□	□	□	□	□
親友（異性）	[ ]	□	□	□	□	□	□
恋人	[ ]	□	□	□	□	□	□

2．「おはよう」「おやすみ」などのあいさつ

	言わない	携帯電話	携帯メール	家の電話	パソコンのメール	手紙	直接会う
知り合い	[ ]	□	□	□	□	□	□
友人（同性）	[ ]	□	□	□	□	□	□
友人（異性）	[ ]	□	□	□	□	□	□
親友（同性）	[ ]	□	□	□	□	□	□
親友（異性）	[ ]	□	□	□	□	□	□
恋人	[ ]	□	□	□	□	□	□

3．遊びの約束・計画

	言わない	携帯電話	携帯メール	家の電話	パソコンのメール	手紙	直接会う
知り合い	[ ]	□	□	□	□	□	□
友人（同性）	[ ]	□	□	□	□	□	□
友人（異性）	[ ]	□	□	□	□	□	□
親友（同性）	[ ]	□	□	□	□	□	□
親友（異性）	[ ]	□	□	□	□	□	□
恋人	[ ]	□	□	□	□	□	□

4．日常の出来事

	言わない	携帯電話	携帯メール	家の電話	パソコンのメール	手紙	直接会う
知り合い	[ ]	□	□	□	□	□	□
友人（同性）	[ ]	□	□	□	□	□	□
友人（異性）	[ ]	□	□	□	□	□	□
親友（同性）	[ ]	□	□	□	□	□	□
親友（異性）	[ ]	□	□	□	□	□	□
恋人	[ ]	□	□	□	□	□	□

5．「ムカつく」「イヤだ」「ごめん」等、相手に対する否定的な感情

	言わない	携帯電話	携帯メール	家の電話	パソコンのメール	手紙	直接会う
知り合い	[ ]	□	□	□	□	□	□
友人（同性）	[ ]	□	□	□	□	□	□
友人（異性）	[ ]	□	□	□	□	□	□
親友（同性）	[ ]	□	□	□	□	□	□
親友（異性）	[ ]	□	□	□	□	□	□
恋人	[ ]	□	□	□	□	□	□

6．「ありがとう」「がんばって」等、相手に対する肯定的な感情

	言わない	携帯電話	携帯メール	家の電話	パソコンのメール	手紙	直接会う
知り合い	[ ]	□	□	□	□	□	□
友人（同性）	[ ]	□	□	□	□	□	□
友人（異性）	[ ]	□	□	□	□	□	□
親友（同性）	[ ]	□	□	□	□	□	□
親友（異性）	[ ]	□	□	□	□	□	□
恋人	[ ]	□	□	□	□	□	□

7．悩みごとや相談

	言わない	携帯電話	携帯メール	家の電話	パソコンのメール	手紙	直接会う
知り合い	[ ]	□	□	□	□	□	□
友人（同性）	[ ]	□	□	□	□	□	□
友人（異性）	[ ]	□	□	□	□	□	□
親友（同性）	[ ]	□	□	□	□	□	□
親友（異性）	[ ]	□	□	□	□	□	□
恋人	[ ]	□	□	□	□	□	□

8．性に関する事柄

	言わない	携帯電話	携帯メール	家の電話	パソコンのメール	手紙	直接会う
知り合い	[ ]	□	□	□	□	□	□
友人（同性）	[ ]	□	□	□	□	□	□
友人（異性）	[ ]	□	□	□	□	□	□
親友（同性）	[ ]	□	□	□	□	□	□
親友（異性）	[ ]	□	□	□	□	□	□
恋人	[ ]	□	□	□	□	□	□

6 最後に、友人や異性に対するあなたの考えをお聞きします。

6-1. あなたの、友人との付き合い方についてお聞きします。あてはまるところに○をつけてください。

	全くあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	やや あてはまる	大変よくあてはまる
1．友だちを傷つけないようにする。					
2．相手の気持ちを聞き出そうとする。					
3．冗談を言って相手を笑わせる。					
4．友だちから傷つけられないようにふるまう。					
5．友だちの内面に土足で踏み込まないようにする。					
6．ウケるようなことをする。					
	全くあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	やや あてはまる	大変よくあてはまる
7．相手の気持ちに気をつかう。					
8．本当の気持ちは話さない。					
9．みんなで一緒にいる。					
10．友だちからどう見られているか気にする。					
11．自分の内面に踏み込まれないように気をつける。					
12．楽しい雰囲気になるようふるまう。					
13．相手の短所を指摘する。					
14．必要に応じて友だちを頼りにする。					
15．一人の友だちと親しくするよりはグループで仲良くする。					
16．仲間の前で恥をかかないように気をつける。					
17．自分の心をうち明けて話す。					
18．友だちから「つまらない人」と思われないよう気をつける。					
19．友だちに人前で恥をかかせないよう気をつける。					
20．悩みごとを相談する。					
21．友だちと同じ持ち物を持つ。					
22．友だちをがっかりさせないよう気をつける。					

23. お互いの約束をやぶらない。	|----------|----------|----------|----------|
24. 友だちグループの中で，自分の個性が目立つようにふるまう。	|----------|----------|----------|----------|
25. 友だちに心配かけないように気をつける。	|----------|----------|----------|----------|
26. 自分を犠牲にしてでも相手につくす。	|----------|----------|----------|----------|
27. 突然まじめな話をして，友だちをしらけさせない。	|----------|----------|----------|----------|
28. 相手にやさしくするよう心がける。	|----------|----------|----------|----------|
29. お互いのプライバシーに立入らない。	|----------|----------|----------|----------|
30. 人間の生き方などについて真剣に話し合うことがある。	|----------|----------|----------|----------|
31. 友だちにグチを言わないようにする。	|----------|----------|----------|----------|
32. 相手に甘えすぎない。	|----------|----------|----------|----------|
33. むきになって，けんかをすることがある。	|----------|----------|----------|----------|
34. 友だちから無神経な人間だと思われないよう気をつける。	|----------|----------|----------|----------|
35. 相手の言うことに口をはさまない。	|----------|----------|----------|----------|
36. まじめな話題になると冗談でごまかす。	|----------|----------|----------|----------|
37. 友だちの話が退屈でもがまんして聞く。	|----------|----------|----------|----------|
38. 友だちと考え方が違っても，自分の考えを主張する。	|----------|----------|----------|----------|
39. 浅い付き合いにとどめる。	|----------|----------|----------|----------|
40. 自分が落ち込んだ姿を友だちに見せないようにする。	|----------|----------|----------|----------|
41. あたりさわりのない会話ですませる。	|----------|----------|----------|----------|
42. 友だちと意見が対立しないよう気をつける。	|----------|----------|----------|----------|
43. 相手の世界に口出ししない。	|----------|----------|----------|----------|
44. 仲間のライフスタイルに自分を合わせる。	|----------|----------|----------|----------|
	全くあてはまらない　あまりあてはまらない　どちらともいえない　やや あてはまる　大変よくあてはまる

45. 相手に自分の意見を押しつけないよう気をつける。	|----------|----------|----------|----------|
46. 友だちからバカにされないように気をつける。	|----------|----------|----------|----------|
47. 友だちの悩みごとに本気で相談に乗る。	|----------|----------|----------|----------|
48. 気の合わない友だちとも話ができる。	|----------|----------|----------|----------|
49. 友だちの心の支えになろうとする。	|----------|----------|----------|----------|
50. 落ち込んだとき話を聞いてもらう。	|----------|----------|----------|----------|

6-2. 異性に対するあなたの考えをお聞きします。

	全くあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	やや あてはまる	大変よく あてはまる
1. 異性の友人に、話しかけるときも、同性の友人に話しかけるときと同じくらい気楽にやれる。	|----------|	|----------|	|----------|	|----------|	
2. 異性と一緒にいるとき、私は内気になることがある。	|----------|	|----------|	|----------|	|----------|	
3. 異性に電話をかけるとき、ドキドキしたりすることはない。	|----------|	|----------|	|----------|	|----------|	
4. 異性にものをたずねるのが苦手だ。	|----------|	|----------|	|----------|	|----------|	
5. 異性の前だと思うようにふるまえないような気がする。	|----------|	|----------|	|----------|	|----------|	
6. 初対面の異性と話すとき、たいていリラックスしている。	|----------|	|----------|	|----------|	|----------|	
7. 概して、私は異性と付き合うのが苦手である。	|----------|	|----------|	|----------|	|----------|	
8. 異性に接するときに緊張することはめったにない。	|----------|	|----------|	|----------|	|----------|	
9. 異性と話をするときは、自分のいいたいことをうまく伝えられないような気がする。	|----------|	|----------|	|----------|	|----------|	

6-3. 最後に、あなた自身に対する考えをお聞きします。

	全くあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	やや あてはまる	大変よくあてはまる
1．私は新しい友人がすぐできる。					
2．私は人がいる所では気おくれしてしまう。					
3．私はひっこみ思案（じあん）である					
4．私は人の集まる所ではいつも、後ろの方に引っ込んでいる。					
5．私は人と広くつきあうのが好きである。					
6．私は他人の前では、気が散って考えがまとまらない。					
7．私は内気（うちき）である。					
8．私は誰とでもよく話す。					
9．私は自分から進んで友達を作ることが少ない。					
10．私は、はにかみやである。					
11．私は初めての場面でも、すぐにうちとけられる。					
12．私は人前（ひとまえ）に出ると気が動転してしまう。					
13．私は自分から話し始める方である。					
14．私は人目（ひとめ）に立つようなことは好まない。					
	全くあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	やや あてはまる	大変よくあてはまる
15．私は知らない人とでも平気で話ができる。					
16．私は人前（ひとまえ）で話すのは気がひける。					

以上で、アンケートは終わりです。

回答し忘れた箇所がないか、確認してから提出してください。

ご協力ありがとうございました

平成15年度厚生労働科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）

男女コミュニケーションに関するベストセラー書籍に関する考察

樋口　善之　　福岡県立大学看護学部地域看護学講座
松浦　賢長　　福岡県立大学看護学部地域看護学講座
北村　邦夫　　（社）日本家族計画協会クリニック
佐藤　郁夫　　自治医科大学医学部産科婦人科学教室

本稿では，男女コミュニケーションに関するベストセラー書籍を分析対象とし，現代の男女コミュニケーションの動向とその背景について検討した．対象とした書籍において，1）リアリティを伴う擬似恋愛実践によって男女の間のコミュニケーションを模索する形式と，2）男女のディスコミュニケーションを肯定する形式が認められた．前者は映像とディテールをその特徴とし，関係構築に対する「自信」の獲得を，後者は科学的エビデンスをその特徴とし，男女コミュニケーションにおける「不安定感」の肯定を求める傾向にあるといえた．

Ⅰ．はじめに

現代の男女のコミュニケーションについての言説や報道には悲観的な論旨を含むものが多い．それらは，対人関係の希薄化や関係構築に対する消極的態度について言及しているものが多い．社会規範から逸脱した性犯罪・性非行に対して，高度にテクノロジー化された社会ゆえの閉塞感や不安定感が影響を及ぼしているのではないかという分析もある．

テレビやラジオ，www(world wide web) や E-mail のような電子メディアの登場により，情報収集における手段は多様化し，情報の流通ルートも多層化している．それら電子メディアに含まれるコンテンツ（内容）の閲覧に関しては，直接的な料金は発生せず，多くの場合，無料となっている．そのような時代において，活字メディア，とりわけ書店の店頭に並ぶ書籍のみが大衆の関心事を集約しているとは一概に言い切れない．一方で，特定のコンテンツの閲覧に関して金銭を支払うという行為が介在するということは，書籍の含むコンテンツに対して積極的な興味を示していると考えられる．

流通する書籍の中において，ベストセラーとして扱われるものがある．ベストセラーとは，ある期間中に発行されたもののうち高位の売れ行きを示した書籍を意味する．ベストセラーが生まれる背景には，その時代の持つ雰囲気，購買対象に対する広告・アピール，本の装丁，キャッチコピー，著作者の有名性，タレント性，話題性，価格等がある．

Ⅱ．研究目的

本稿では，男女のコミュニケーションに関するコンテンツを含むベストセラー書籍を対象に，1）どのような書籍が実際に求められているのか，2）なぜ，その書籍が求められたのか，3）その書籍を購入する際に購買層が欲したものは何か，について

分析し，現在の男女コミュニケーションについてメタ分析的な観点から考察することを目的とする．

コミュニケーションの方法，あるいはその意味づけについて記述された書籍が一般購買層においてベストセラーとして受け入れられているという事実があらわすものは，その書籍の企画，構成，バックグラウンドに関連する購買層における潜在的な願望であったり，実際的な処方箋であったりすると考えられる．ある一定の時期に，広範囲において“消費”された対象書籍について社会現象学的な観点から現在求められている男女コミュニケーションのあり方について探っていくこととする．

Ⅲ．対象書籍

書籍情報誌「ダビンチ」（株式会社メディアファクトリー）の vol.68～vol.116（1999年12月～2003年12月）までの書籍ランキング情報（日販およびトーハンの調べ）を調査対象に，男女コミュニケーションに関する書籍（小説を除く）のタイトル，著者名，出版年，出版社を調べたところ，5冊が該当した（表1）．

表 1　ベストセラー書籍のタイトルと著者名

出版年	タイトル	著者名
1999	妻と私	江藤　淳
2000	夫と妻	永　六輔
2000	話を聞かない男 地図が読めない女	アラン・ピーズ バーバラ・ピーズ 藤井　留美（訳）
2000	あいのり	TV LIFE（編）
2001	あいのり（2）	TV LIFE（編）
2003	嘘つき男と 泣き虫女	アラン・ピーズ バーバラ・ピーズ 藤井　留美（訳）

「妻と私」は文学者の江藤淳によって著された私記である．その帯には『「治療不能のガン，三ヶ月の命」宣告はある日，突然下った　～ただ一人の家族・妻を失って～』とある．装丁は白が基調であり，本文は115ページである．

「妻と夫」の著者は，放送作家であり，文化人である永六輔である．内容は著者と辛淑玉，中山千夏との対談，淡谷のり子追悼講演を含む．装丁は岩波新書の“新赤版”である．帯はなく，本文は207ページである．

「話を聞かない男　地図が読めない女」はヒューマンコミュニケーション領域の学者でボディランゲージを専門とするアラン・ピーズとバーバラ・ピーズによる著書である．2003年に発行された「嘘つき男と泣き虫女」はその続編である．訳者は藤井

留美である．内容は，科学的な研究結果により構成されており，生物学，脳生理学，心理学等の領域における研究結果をフレームワークに男女の日常的な会話，トラブルについて平易かつユーモアに富む表現で述べられている．How To 式の表記や簡易テストも含まれる．装丁は，タイトルに沿ったイラスト（背中合わせに「電話をする男性」と「地図を読む女性」，「知らぬ顔でたたずむ男性」と「さめざめと泣く女性」）で構成され，白を基調としている．帯には『全世界共通の「男と女」のバイブル』，『「男と女」がもっと分かりあえるためにと』ある．本文はそれぞれ２８４ページ，３１５ページである．

「あいのり」は，フジテレビ系列で放送されたバラエティ番組の内容をテキスト化したものである．「あいのり（2）」はその続編である．この番組は，１８歳以上の一般視聴者から番組参加の希望者を募り，選ばれた男女７人の恋愛をドキュメントタッチに編集し，それを観察するというものである．書籍には番組内で公開された恋愛中の各人の日記やロケーションの詳細が含まれる．装丁はピンクを基調に，番組のシンボルであるピンクのワンボックスカーのイラストが象徴的である．本文は 210 ページである．

Ⅳ．書籍の特異点とその要素

対象書籍において，書籍の持つ時代性とその注目度に着目し，「あいのり」「あいのり（2）」および「話を聞かない男，地図が読めない女」を分析対象とした．

対象書籍の中で，「あいのり」「あいのり(2)」は，テレビ番組のテキスト化という点で他の書籍とは形態が異なる．書籍の情報宣伝という観点から見れば，購買層の多くは番組の視聴者でもあるということを想像することは難しくない．

番組内容は長期間の海外旅行を通じて一般の参加者男女 7 名が繰り広げる恋愛模様「その出会いから愛の告白」までを観察するというものである。その模様を番組スタジオで再現し，それに対してテレビタレントのコメンテータがユーモラスな指摘を交えながら恋愛における葛藤や男女のすれ違いを同情や感動の涙を交えて番組を進行する．視聴者は複数の恋愛過程を俯瞰しつつ，かつ自分たちと同じ一般視聴者である参加者にたいして自己投影し，疑似的な恋愛を体験する．

本書が恋愛小説やいわゆる“How to”本と異なる点として，１）登場人物が一般の視聴者から募集されているため，限りなく自己に近い者の恋愛をテキストとして内在化することができる，２）恋愛以外の生活（衣食住，買い物等）の詳細を記述することにより，その恋愛過程、結末に対してリアリティを提供している，３）テレビ番組のテキスト化であるため，映像と直接的なリンクがはられている，が挙げられる．１）を言い換えると「擬似恋愛」の再構築である．購買層は，２）と３）に補強された１）を，つまり“生活のリアリティを保持し”，“実写としてのモデルを伴う”擬似恋愛体験を欲していたと考えられる．

本書では，男女７人による複数の恋愛が平行して進行するため，複数の擬似恋愛バリエーションが存在する．各人の内面吐露

である日記がその場面毎に挿入されることにより，俯瞰的な立場からの状況把握・関係検証が可能とある．また，本書には過去の場面を回想しながらの参加者のコメント，対談が含まれており，各恋愛における個々人の反省や状況解説を読むことができる．テレビ番組のテキスト化により，本書は，擬似恋愛の再構築に加え，一種の“How to”本，恋愛実践集としての役割を果たしているといえる．

対象書籍の中で，「話を聞かない男，地図が読めない女」は，日本国内で２００万部を突破し，ミリオンセラーを記録した唯一の書籍であり，唯一の翻訳書でもある．生物学，脳生理学などの分野の研究データをフレームワークに男女の違いを平易かつユーモラスな表現で解説したノンフィクション分野に属する書籍である．

これほどまでの発行部数を重ねた要因として，綿密なマーケティングと戦略的な販売・宣伝が挙げられるが，それ以上に書籍そのものの内容に対する評価が高かったといえる．

男女のコミュニケーションにおける諸問題に対して心理学的な観点からのアプローチだけでなく，脳の構造やヒトの進化における過程に論拠をおいた処方がなされることにより，論旨の明確化と問題所在の平準化が達成されている．

“なぜ男は話を聞かないのか”，“なぜ女は地図が読めないのか”について，「男と女は違うという事実」を原点に，身近な事例と科学的な研究結果，各種の統計データを用いて，方程式の解を導くかのごとく，その回答を提示するスタイルが本書の高い評価につながっていると考えられる．また，本書の特徴としてパラグラフ間に挿入されるユーモラスなフレーズが文章全体へのスパイスとして組み込まれていることが挙げられる．

本書は，男女の関係について，エビデンスに基づいた男女関係を論理的に明示することにより，「男と女は違うという事実」というコミュニケーションの断絶を肯定する視点から男女コミュニケーションを捉えなおす試みをその本質としている．

Ⅴ．まとめ

「あいのり」はテレビ番組のテキスト化という特異性から，映像的な疑似恋愛体験の内在化を再構築することにその特徴が認められた．恋愛のトライアンドエラーを蓄積することにより，“成功する”男女コミュニケーションを模索するという従来の経験則的な立場に立つ書籍であった．

一方，「話を聞かない男，地図の読めない女」は，「男と女は違うという事実」に関する科学的なエビデンスをフレームワークとして用いることにより，男女関係の脱構築化，標準化を試みることにその特徴が認められた．

書籍の内容，装丁，発行部数から，前者の購買層は後者よりも年齢的に若く，逆に後者の購買層における年齢幅は前者よりも広いと推測される．また，前者は映像を核としたコミュニケーションのディテールを提供することにより，後者は男女のディスコミュニケーションをエビデンスに基づき明瞭化することにより，対象購買層からの積極的な評価を得

るに至ったと考えられる.

男女におけるコミュニケーションは，メディアの興隆により，より複雑な様相を呈している．そのような時代において，本稿で対象とした書籍が一種の“バイブル”として幅広い層に受け入れられたということは，「リアルな恋愛実践による男女コミュニケーションの模索」，および「男女の間のディスコミュニケーションの肯定化」と捉えることができる.

現代の男女コミュニケーションへの世相として関係構築に対する「自信」の獲得と「不安定感」の肯定を求める傾向にあるといえる.

平成15年度厚生労働科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）

新しい性教育の展開に関する基礎的研究

松浦　賢長　　福岡県立大学看護学部地域看護学講座
樋口　善之　　福岡県立大学看護学部地域看護学講座
北村　邦夫　　（社）日本家族計画協会クリニック
佐藤　郁夫　　自治医科大学医学部産科婦人科学教室

わが国の学校性教育において，性行動の変容を目的とする新しい性教育を展開することはスムーズではない。しかし，性を扱わないプログラムでも子どもたちの性行動を変容しうるということが示されていたことから，たとえば総合的な学習の時間などで，それらの展開の可能性があると考えられる。いずれにせよ，学校現場に露呈する子どもたちの性に関する問題は，出口ととらえたほうがよく，入り口，すなわち妊娠中からの包括的なアプローチを組み立てていく必要があり，学校ではない場で新しい性教育の展開の可能性を探っていく必要もあると考えられた。

Ⅰ．はじめに

わが国では性教育といえば，まず学校で行われるそれを指している。昨今の，思春期の子どもたちの性行動（およびその帰結）の問題がその数値の「悪化」とともにクローズアップされるようになった。ますます，学校の性教育に期待されるところが大きくなってきた。

しかしながら学校の性教育には限界がある。それは学校教育および学校性教育の目的は人間形成・人格形成にあるという大前提である。いや，人間形成・人格形成に特化した場を学校といってよいのだろう。ゆえに，性を人格と結びつけた概念，いわゆるセクシュアリティ概念が学校において受け入れられているのは自明の理である。逆に言えば，性行動を低リスクに導こうという教育，英語で言えば sex education はわが国の学校にはなじまないことがわかる。このような状況の中，往々にして，セクシュアリティ系の性教育をしながら，性行動を変容しようとする（効果に疑問のある）ねじれが生じている。

たとえばピア・カウンセリングがある。それは，前提に「人間の健康問題に対する自己解決への可能性とそれに対する信頼」をおく。それは人間に特化した前提であり，人間中心主義（humanism）と親和性が高く，人間形成・人格形成とわかちがたいいわゆるセクシュアリティ系のアプローチである。セクシュアリティ系のアプローチは，人格といったものに影響を及ぼす可能性があるが，性行動に影響を及ぼすことを目的に展開されている場合がある。性行動は sexuality というよりは，sex の範疇であり，セクシュアリティ系アプローチからのアクセスは困難といってよいだろう。影響が及ぶとすれば，知識や意識，あるいは意志のレベルであろう。

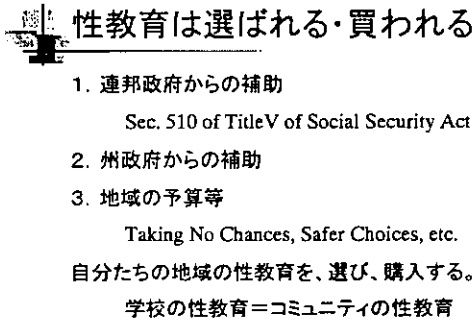
今回われわれは，新しい性教育（sex education）を展開し効果をあげはじめてい

る米国の現状を考察することにより，わが国においても，セクシュアリティ系ではない新しい性教育の展開の可能性を探るための基礎的研究をおこなった。

Ⅱ．新しい性教育をめぐる議論

（1）性教育は選ぶもの【スライド1】

1980年代までの米国は，思春期の子どもたちの性行動の帰結（妊娠，中絶，性感染）に苦しんでいた。数値は増加し，繰り出される対策は有効ではなかった。その結果，それら性行動の帰結はあまりにも社会的負担を増しており，かつ，本人や生まれてくる子どものQOLを芳しくないものにするという問題意識が共有されるに至った。



わが国では，性教育がおこなわれる，という表現がしばしば用いられる。その主語は誰か。学校であろうか，教育委員会であろうか。いずれにせよ，地域のわたしたち，ということではないはずだ。米国では学校の性教育はおこなわれるものではなく，地域の自分たちが選ぶもの，購入して展開するものである。

これは教育委員会というシステムの考え方が異なるからだ（わが国のそれもアメリカのシステムを輸入したはずなのだが）。アメリカ人が新しい町を作るとき，まずそこに教会と学校をつくるという逸話がある。子どもを持つものだけが学校にかかわるというわけではないのだ。学校は地域にあり，その地域の未来を作り出す場であるというイメージなのだろう。首長とは別ラインの教育委員会のシステムがあるのも，地域の人々が教育をどれほど重要視しているかのあらわれである。地域の人々は選挙等により教育委員会の人事などをコントロールする。教育委員会は学校をコントロールする。すなわち学校は地域の人々によってコントロールされていることになる。地域社会に負担をかけることになる子どもたちの性行動の帰結を減少させたいという意志を地域の人々が共有するならば，人々は教育委員会に働きかけ，その地域の子どもたちの問題を適確に把握した上で，その問題（性行動と帰結）を解決もしくは減少させるための性教育プログラムを開発している財団等から購入することになる。

子どもたちの性行動の帰結とその社会的負担に手を焼いていたクリントン政権（ブッシュ政権ではない）は，そこで，禁欲を主とした性教育プログラムを購入する際に連邦政府から補助金を出すことにした。それが，Social Security Actのタイトル5，510セクションという法的規定となった。俗にタイトルVと呼ばれている。

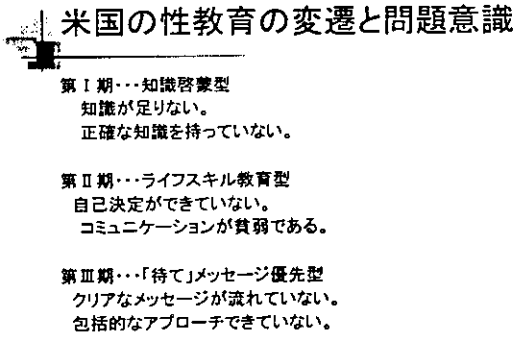
なぜ禁欲プログラムなのか。答えは簡単である。社会的に望ましくない性行動の帰結（妊娠，中絶，性感染）を減らしたいとなれば，その帰結の原因，すなわち性行動を減らすか低リスクにする必要がある。禁欲はそのリスクを低くするひとつの有効な方法である。ただし，禁欲が有効だとしても，既存の禁欲プログラムが禁欲を導くと

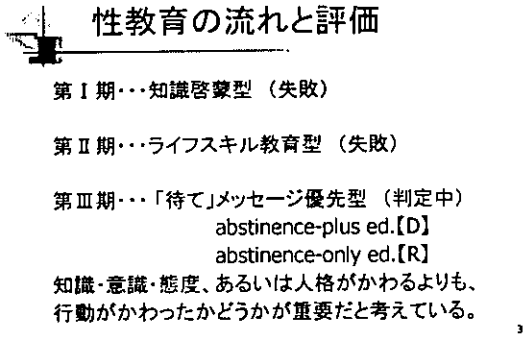
いう保障はないのが難しいところである。

ちなみに，性教育プログラムを開発している財団等は全米にたくさんある。全米の自治体にプログラムを売り込むわけだ。わが国の日本性教育協会に影響をあたえたSIECUS もその一つであるが，それ以上のものではなく，その一つにすぎない。他の分野と同様，それらの財団等は共和党系と民主党系に色分けされているのが常である。共和党政権の場合には，共和党系の財団が得意としている性教育プログラムをよしとする政策がとられる可能性が高いし，民主党政権の場合には，民主党系の財団が得意としている性教育プログラムをよしとする政策がとられる可能性が高い。セクシュアリティ・エジュケイション系のプログラムを多く開発してきた SIECUS はちなみに民主党系といってよいだろう。ヒューマニズムに親和性が高い（SIECUS のプログラムを検証して米国の性教育はセクシュアリティ系教育が基本であるがとごく語るのはこのあたりのことを認識していないがゆえだと思われる)。セックス・エジュケイション系のプログラムが持てはやされている現状ではそれらは若干下火の感がある。しかしながら，80 年代以降は，子どもたちの性行動とその帰結があまりにも社会的負担となってきたために，党派による棲み分けは以前ほどクリアではなくなった。クロスヴォートならぬ，クロスサポートの代表的な例が，民主党のクリントン政権下におけるタイトルＶといえるのではないだろうか。

（2）性教育の変遷【スライド２＆３】

米国の性教育は長い歴史を持つ。30 年ほどの歴史である。10 年ごとに分けて考えてもよいだろう。その変遷を Kirby 博士のインタビューからまとめてみた（コネチカット大学保健センターのアーカイブより)。1970 年代後期あたりは，知識啓蒙型の教育が主流であった。子どもたちには正しい性知識が足りていないという認識がそのベースにあった。知識啓蒙型の性教育は，子どもたちの「性行動」を変えるには至らなかった。すでにこの時点で米国は性教育（sex education）の目的を性行動の変容においていたことがわかる。





1980 年代からライフスキル教育型の性教育がはじまる。子どもたちには，行動を選択するスキルに欠けているのではないかという前提および子どもたちにはコミュニケーション・スキルが欠けているがゆえに，望ましい行動をとることができないのではないかという前提があった。このライフスキ

ル教育型の性教育も子どもたちの性行動を変えるには至らなかった。

1990年代中盤からは，禁欲メッセージ優先型の性教育がおこなわれはじめた。禁欲というと即座に「純潔教育」に結び付けて道徳的・規範的な土俵からの批判をする向きもあるが，この禁欲はabstinenceであり，待つという行動を表している。禁欲という日本語の裏にある精神性や将来性の確保を表しているのではない。待てというメッセージ，もしくは，先に延ばせというメッセージといってよいだろう。この型の教育には，禁欲のメッセージが流れていないという前提がある。

ちなみにKirby博士らによる全米調査によると，約95%の大人が「子どもたちは少なくとも学業を終える（高校）まではセックスをするべきではない」と考えており，子どもたちの約90%が「大人はそのようなメッセージをクリアに流してほしい」と考えていることが明らかになっている。禁欲のメッセージが大人にも子どもにもこれほどまでに肯定的にとらえられているのは驚異的である。わが国の場合，ある公立高校の教師を対象にした調査では，その約45%が「子どもたちは少なくとも学業を終える（高校）まではセックスをするべきではない」と考えていたに過ぎず，その他は「子どもたちの決めること」という個別的な性行動にはコミットしない姿勢を表明していた。

スライド3に書いたが，実は禁欲プログラム（abstinence programs）には2種類以上ある。そこを理解せずに，禁欲プログラムと訳したままわが国にそれを輸入すると，政治的イシューになりやすい。代表的な2種類にまとめて議論する。

2つの禁欲プログラムとは，禁欲プラス教育と，禁欲のみ教育である。禁欲プラス教育は，禁欲のメッセージ（くれぐれも精神性ではない）を出しながら，避妊教育やエイズ教育を展開するという一見矛盾しているかに思えるアプローチである。子どもたちにとってこれは矛盾とはうつらない。この禁欲プラス教育が子どもたちの性行動を低リスクに誘導するのに効果をあげていることがランダムコントロール研究などで明らかになっている。

一方の禁欲のみ教育であるが，これは性や避妊に関しては扱わずに禁欲せよということを教え込む教育といってよいだろう。宗教的なバックグランドが強いかもしれない。これが子どもたちの性行動に影響を及ぼすかどうかは今，研究がおこなわれている最中である。

まとめると，米国で「禁欲プログラム」が効果があると言われた場合，どちらのプログラムのことを指しているかによって，日本語への訳し方を違ったものにしなければいけないということだ。

（3）わが国の性教育の変遷【スライド4】

わが国の性教育の変遷については，まず学校教育としての性教育をとりあげるべきだろう。日本性教育協会はセクシュアリティ概念のもとに設立されたと考えてよく，また同時にその概念は，学校における性教育に持ち込まれた。学校教育が人格形成の場であるということが，学校教育とセクシュアリティ教育の親和性を築き上げた。よって，わが国の学校性教育はその濫觴からセクシュアリティ系の教育である。先行す

る，人格形成を主たる目的とする道徳教育（昭和33年から導入）と親和性が高いのはいうまでもない。したがって「¯を大切にせよ」という道徳のフレームが，性教育の「いのちを大切にせよ」というフレームと同じなのは自明であり，また評価の方法も，どちらも作文主体であることも自明である。

日本の（学校）性教育

1980年代～
　セクシュアリティ教育型（＝道徳教育型）
　　人間形成、いのちの教育、異性の尊重
1990年代～
　混在（性交&スキル&思想）教育型
　　コンドーム、自己決定、性のライツ
　　政治的イシューになりやすい

1990年代からは，学校性教育は混迷していく。1980年代のそれは，道徳教育と親和性が高いということを教師たちの多くが自認していたが，90年代になると，エイズ問題もあり，性交を扱う教育，ライフスキル・自己決定を扱う教育，そして思想性（イデオロギー）を強烈に持つ教育プログラムが入り乱れてきた。性教育が政治的イシューになる土壌が形成された。

（4）新しい性教育の効果判定【スライド5】

わが国においても，米国の80年代と同様，子どもたちの性行動とその帰結が社会問題となってきた。混迷する性教育をもう一度整理すべき時期に来ている。

性行動は，性知識や性意識に必ずしも規定されるとは限らないのが難しいところである。それゆえに，性行動を変容する目的をもちながら，性知識や性意識に焦点をあてるのは若干問題がある。性行動を変容する目的をもつならば，スライド5に示した指標の検証をするべきだろう。さらにその確率的帰結として，妊娠，中絶，性感染の率もフォローするべきだ。

新しい性教育の効果判定

以下が長期に渡り持続しているかどうかを検証
- 性交開始年齢が上昇したか
- 性交頻度が減じたか
- 性交相手数が少なくなったか
- コンドーム利用の率が高くなったか
- 避妊実行の率が高くなったか

その確率的帰結として以下の割合も評価の対象に
- 妊娠出産／中絶するものの割合が減ったか

（5）新しい性教育における最新の知見【スライド6】

性教育は，セクシュアリティ系とセックス系にわかれる。もちろん混在するプログラムもあるだろうが。セクシュアリティ系の特徴はスライドに示したとおりである。また，セックス系の新しい視点をスライドに示した。日本の学校教育においては新しい性教育である。

新しい性教育における最新の知見

- 性教育
  - セクシュアリティ型（性と人格を結び付け人間形成）
    - 道徳教育との親和性が高い（道徳は教科から独立35h）
    - 客観的評価に馴染まない（目の輝き、作文、等）
  - セックス型（性行動を低リスクに導く）
    - 客観的評価のためにデザインされていることが必要
      ランダム・コントロール・トライアル
      長期データ変化のフォローアップ
    - 必ずしも性を扱う必要がない
      サービス・ラーニング・プログラム

新しい性教育の目的は，性行動を低リスクに導くことである。本人の意志や知識にアプローチすることも可能であるが，その環境をコントロールすることも重要である。

また，セクシュアリティ系と決定的に異なるのは評価を客観的にすべきとする点であり，できるということである。しかしながらそのためには多大な，かつ長期にわたる実践・介入・研究デザインが必要となる。Kirby 博士らがわれわれに示した中で，驚きであったのは，子どもたちの性行動を低リスクに導くためには必ずしも性を扱うプログラムを展開する必要はないということであった。たとえば異年齢集団で構成される地域ボランティア活動などのサービス・ラーニング・プログラムなどである。

（6）まとめ

わが国の学校性教育において，性行動の変容を目的とする新しい性教育を展開することはスムーズではないだろう。しかし，前項の最後に述べた，性を扱わないプログラムでも子どもたちの性行動を変容しうるということが示されていたことから，たとえば総合的な学習の時間などで，それらの展開の可能性があると考えられる。いずれにせよ，学校現場に露呈する子どもたちの性に関する問題は，出口ととらえたほうがよく，入り口，すなわち妊娠中からの包括的なアプローチを組み立てていく必要があり，学校ではない場で新しい性教育の展開の可能性を探っていく必要もあると考えられた。

平成15年度厚生労働科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）

性に関する情報源と性知識を得るべき年齢に関する全国無作為抽出調査

松浦　賢長　　福岡県立大学看護学部地域看護学講座
樋口　善之　　福岡県立大学看護学部地域看護学講座
北村　邦夫　　（社）日本家族計画協会クリニック
佐藤　郁夫　　自治医科大学医学部産科婦人科学教室

本研究班が実施した全国ランダムサンプリング調査「男女の生活と意識に関する調査」を題材に，性知識に焦点を当てた解析をおこなった。その結果，20-24歳群以下においては，性知識の情報源の第1位は学校になっており，その上の世代の友だちを抜いていた。友だちから性知識を得るものは減少中であり，自然に得ているものも減少中であった。マスコミを情報源とするものも減少中であった。子どもたちはマスコミから不正確でゆがんだ知識をえているので，という前提からはじまるステレオタイプな言説は見直されるべき時に来ているといえた。また，子どもの有無により，いつ性知識を得るべきかの回答に違いがみられた。子どもを持つものは，性の基本的事項についてはより早く知るべきだと思っており，性のトラブル・予防や諸相についてはより遅く知るべきだと思っていた。今後は，学校以外のルートにおいて，これらの社会的ニーズに対応するプログラムやアプローチを開発する必要がある。その場合には，子どもを持つ親の意向を十分に反映しなくてはならない。また，自然に身についたというルートも見直す必要がある。なぜならば，その場合は知識以外のものも自然に身についた可能性があるからであり，コミュニケーションの観点も含めて，これからの研究課題にしたいと考える。

Ⅰ．はじめに

学校における性教育が体系的に開始されていない年代（昭和後半まで）においては，性知識を学校の教員や授業から得ることは，それほど多くはなかった。では，学校という権威付けされたものから性知識を得られなかったからといって，あるいは，専門的な性知識を得られなかったからといって，その年代にそれに起因する特有の大きな問題が存在したのだろうか。

性知識を豊富に得たからといって，あるいは，性知識を学校システムなどの権威あるものから得たからといって，子どもたちの性行動が低リスクなものになるのか。1970年代後半の米国における性教育学者の落胆をみれば答えは示唆される。

性知識を学校システムなどの権威あるものから得たからといって，子どもたちの性行動が低リスクなものに誘導されるということは期待薄である。性知識では性行動は変わらないということもできるし，性知識「だけ」では性行動は変わらないというこ

ともできる。さらに，わが国における学校性教育の主目的は子どもたちの性知識を増やすことではない。これ以上，学校の性教育にさらなる知識（ペーパー上の知識だけに言及しているのではない。避妊法の模擬授業なども当然含める。）を求めることが何を生み出すのか。われわれ専門家は，常に仮説と検証をおこなっていかなくてはならないと考える。

今回は，本研究班が昨年度におこなった，わが国ではじめての全国ランダムサンプリング調査から，わが国の国民が，性に関する知識を一般的に何歳くらいの時に知るべきだと思うかという問いへの回答を解析した。とくに，このような質問（一般的に・・・どう思いますか，などの質問）への回答には，無責任感が付きまといかねない。そこで，子どもの有無別にわけて解析し，わが国における性知識習得に関する意識を明らかにした。

Ⅱ．対象と方法

昨年度，本研究班がおこなった「男女の生活と意識に関する調査」のデータをもとにする。これは，わが国で初の全国ランダムサンプリングによる性意識・性行動調査であり，今後の性教育を考えるうえでのベンチマークとなる調査研究である。調査方法および対象については，すでに日本家族計画協会から出版されている「性に関する知識意識行動について（男女の生活と意識に関する調査報告書）」を参照されたい。

同調査における，以下の質問項目をとりあげる。問 14 の「あなたは，性に関することや避妊方法について，主にどこから知りましたか（10 項目の選択肢があり，○は 2 つまで）」と問 15 の「性に関する事柄について，あなたは一般的に，何歳くらいの時に知るべきだと思いますか（15 小項目の選択肢すべてに○を 1 つずつ）」である。属性項目の子どもの有無もとりあげた。

子どもの有無と性知識取得意識の関連を解析するにあたっては Wilcoxon の順位和検定を用いた。問 15 における 15 小項目の選択肢は，「3-5 歳」「6-9 歳」「10-12 歳」「13-15 歳」「16-18 歳」「19 歳以上」となっており，他に「個人によって異なる」「知る必要はない」が用意されている。

Ⅲ．結果

（1）性に関する情報源

表 1 に，性に関する情報源について示した。対象者すべてに着目すると，情報源は，友だち，マスコミ，学校，自然に，の順になっていた。年齢群別にみてみると，友だちからはそれほど大きな違いはないのに対して，マスコミや自然に，については，年齢群が若くなればなるほど，それらを情報源とする割合は少なくなっていた。逆に，学校を情報源とするものの割合は激増していた。

（2）子どもの有無と知るべき年齢

性に関する知識をいつ得るべきか，について回答の最頻値を 15 小項目別に以下に示す。

****

「男女の心と身体の違い」

（男性　10～12 歳、女性　10～12 歳）

「二次性徴など身体のしくみ」

（男性　10～12 歳、女性　10～12 歳）

「受精、妊娠、出産のしくみ」